

1年1産を目指して！ ～ 妊娠までの繁殖管理 ～

牛の妊娠期間は285日～290日。1年1産を目指すには、分娩後60～80日程度までの種付けが重要です。

発情の観察

● 観察が必要な牛 ●

観察が必要な牛は把握できていますか？

- 分娩後30～40日（初回発情の確認）
- 初回発情後10～20日
- 前回の発情／人工授精後 18～24日
- 生後12ヶ月齢以上の育成牛

● 観察のタイミング ●

少なくとも2回／日、同じ人の観察が理想

- 朝（早朝）の作業前
- 夜の作業の終了後
- ※ 夕方から早朝にかけての発現割合が高いとされています。

● 観察する内容 ●

「～しながら」ではなく、観察時間を

- 乗駕（スタンディング）・乗駕の許容
- 挙動：そわそわする、鳴く、頻尿
- 外陰部：充血・腫脹、粘液の漏出
- 発情発見機器の確認

発情を発見！

適期の人工授精（AI）

スタンディング開始6～8時間後から終了後8時間程度の期間で受胎率が高い。AIの目安としては…

- 早朝に発見した場合は、午前中
- 昼ごろまでに発見した場合は午後遅くに
- 夕方～夜に発見した場合は、翌日午前中

AI完了！

妊娠鑑定

妊娠鑑定が必要な牛は把握できていますか？

- 種付け後は発情回帰がないか注意して観察
- 種付け後50～60日を目安に、獣医師による妊娠鑑定

診療の依頼

- 分娩後60日たっても発情がこない
- 生後14ヶ月たっても発情がこない
- 複数回種付けしても受胎しない
- 種付け後60日（妊娠鑑定）



外陰部の充血・腫脹



粘液の漏出（尾がらみ）

【参考資料】

- ・肉用繁殖牛飼養管理マニュアル（岩手県）
- ・黒毛和種使用管理マニュアル（社団法人全国肉用牛振興基金協会）